

7月に入って、ようやく長引いた梅雨が明けました。だんだんと暑さが増し、蝉の鳴き声も賑やかになるにつれ、私の生活も期末の報告と度重なる面接で忙しくなってきました。

学業面

ゼミと修論の報告に追われた夏でした。

卒業単位はすでに足りていますが、残り僅か一年間しかない研究生活のうちに、出来る限り自分磨きしたいという思いで、他人より多くのゼミ（4限）を受講しました。期末報告のため、図書館と研究室の往復生活を始めました。発表が直近の時、家に帰れないことを覚悟し、洗濯用具と、いっぱいのカップ麺とコーヒーを研究室に備えておきました。このように、勉学に没頭する毎日を送っていました。辛い時もよくありました。けれども、研究室の窓から、黎明に佇む時計台と夕焼けに染まる空を見たとき、そのあまり他の人が眺めることができないだろう景色に癒され、また頑張ろうという意欲が湧きました。諦めずに努力した結果、4限のゼミ全てで理想的な成績を残すことができ、今までにない達成感を強く感じました。

修論に関しては、指導教授とさらに面談をした上で、研究課題を見直しました。以前漠然としていた「国際養子縁組の法的課題」から「国際私法観点からみる中国の継親子関係」にテーマを絞りました。日中結婚の中で連れ子再婚の増加という背景に基づき、継親子の間に、相続など親子関係の存否が絡んでくる法的問題が発生し得ると考えたからです。この研究の意義として、さらに、日中の法律において継親子関係の定めが異なるため、日本法と中国法のいずれを準拠法とするかが継親子関係の性質を左右します。故に、論文を通して、国際私法の観点から日中継親子関係の法的性質を検討することで、事前に予測可能で安定的な国際家族関係の構築を実現したいと考えています。

このように、論文の最終的なタイトルが確定してから、私の研究により一層の進展がありました。9月の修論報告も無事に終わりました。現在は、12月までの論文の完成を目指し、コツコツと研究を進めていきたいと思います。

就活面

進学か就職か、これまでずっと悩んできた二者択一の人生上の選択でした。

しかし、自分の適性と自分がやりたいことを見直した結果、実務を通して法律の道を深めていくという決断をしました。

しかし、就職の決断が他人よりかなり遅かったうえで、法学研究科の中で日本で就職をする者が1人もいませんでした。したがって、私の就活は孤独の戦いとなってしまいました。

最初は、右も左も分からない状態で、無計画にたくさんの企業に応募しましたが、ほぼ全滅しました。しかし、私はめげませんでした。これまでの失敗経験を踏まえ、改善策を考えたのみならず、大学のキャリアサポートセンターから模擬面接などの就活支援も求めました。そのおかげで、きちんと自分分析ができるようになり、度重なる面接練習を通して日本語能力も飛躍的に伸びました。

もう一度自分磨きした後、私は就活を再開しました。その時、応募中の法律事務所に日中友好協会の先輩がいらっしゃる事が偶然わかりました。協会の紹介を通じてコンタクトを取り、先輩からたくさんの就活のアドバイスと実務の経験談を教えてくださいました。協会の繋がりによって、先輩と知り合うことができたことは、就活中の貴重な宝物だと思います。それに加え、法律事務所の3ヶ月のインターンの機会も得ました。中国法チームに所属し、先輩の指導のもとで、様々な日中案件を経験し、外国人弁護士の仕事を初めて体感することができました。

インターン中は、他企業の面接も並行して受け続けました。選考に選考を重ねているうちに、だんだんとうまく話せるようになり、最終的に大手自動車メーカーと大手ゲーム企業の法務職の内定をもらいました。

卒業後は社会に出て、企業の中で法務職で専門性を磨きつつ、法務以外の業務も幅広く経験し、一人前の法的スペシャリストを目指したいと考えています。



8月の青空の下の京大時計台



研究室の窓から見た夕焼け

蝉の声で目を覚ます日がだんだんと少なくなり、秋雨がいつの間にか京都に訪れてきました。忙しい夏と別れを告げ、今年の残りの時間を大切に、悔いのないよう最後の学生生活にピリオドを打ちたいと思います。